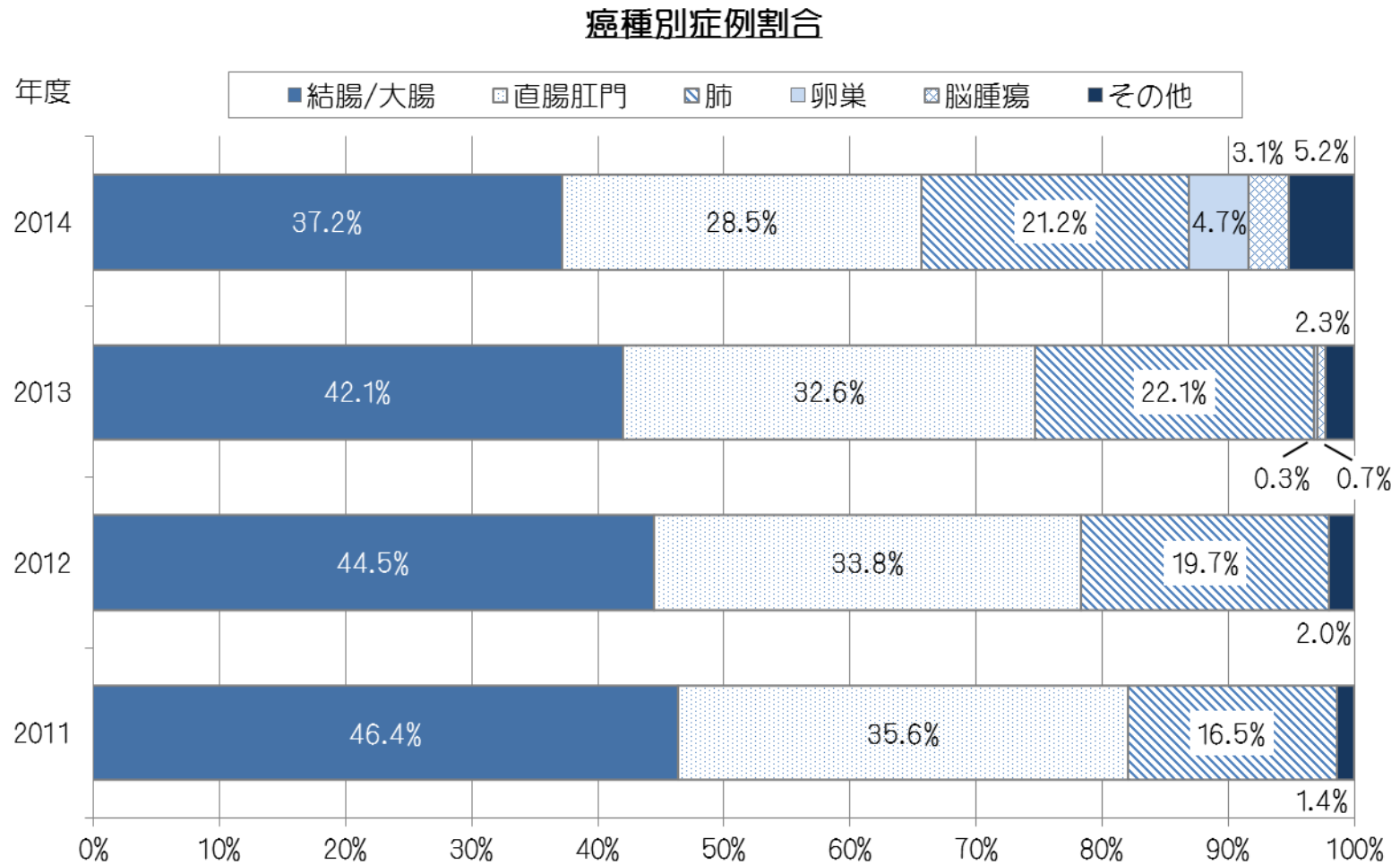


1. 癌種別症例割合

✓ 2013年の適応追加により、2014年度は卵巣及び脳腫瘍の症例割合が増加

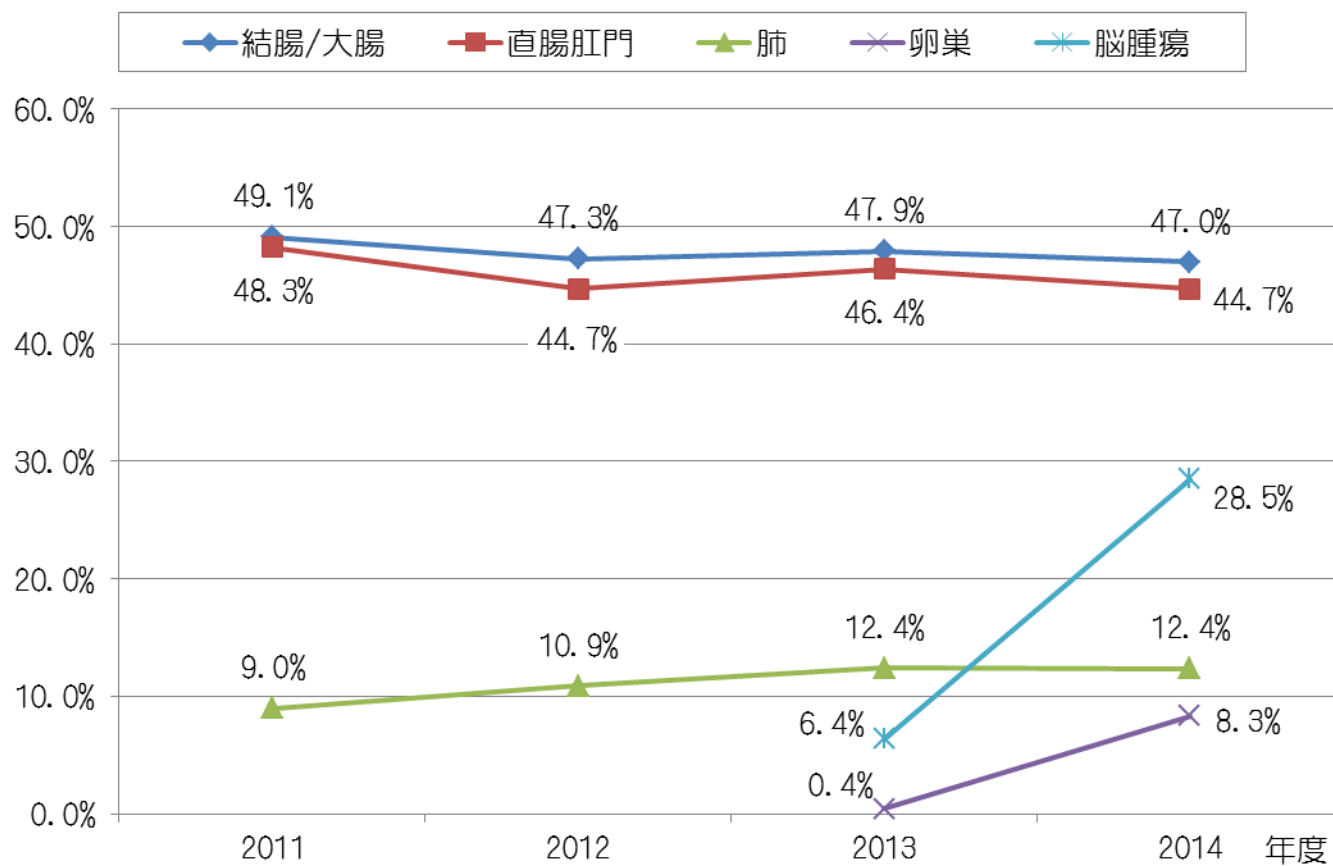


2. 主な癌種における処方割合

✓ 脳腫瘍における症例割合、レジメン割合及び施設割合がいずれも拡大

a) 症例数

ベバシズマブが処方された症例割合



(年度)	2011			2012			2013			2014		
癌種	全症例数	症例数	%	全症例数	症例数	%	全症例数	症例数	%	全症例数	症例数	%
結腸/大腸	68,821	33,806	49.1	73,466	34,737	47.3	68,598	32,881	47.9	68,703	32,270	47.0
直腸肛門	53,731	25,934	48.3	59,070	26,405	44.7	54,959	25,488	46.4	55,321	24,730	44.7
肺	134,066	12,035	9.0	141,315	15,344	10.9	139,439	17,279	12.4	148,915	18,408	12.4
卵巣	52,018	不明	-	49,081	不明	-	50,135	198	0.4	49,118	4,088	8.3
脳腫瘍	7,655	不明	-	8,417	不明	-	8,393	534	6.4	9,578	2,730	28.5

- ◆ 主な癌種において、ベバシズマブが処方された症例の割合は前頁図及び上表の通り。
- ◆ 2014年度でみると、結腸/大腸では6万8,703例のうち47.0%にあたる3万2,270例にベバシズマブが処方されている。
- ◆ 以下、直腸肛門では5万5,321例のうち44.7%にあたる2万4,730例、肺では14万8,915例のうち12.4%にあたる1万8,408例に同剤が処方されている。
- ◆ 2011年度から2014年度の推移をみると、結腸/大腸は2.1ポイント、直腸肛門は3.6ポイント減少し、肺は3.4ポイント増加している。
- ◆ また、卵巣及び脳腫瘍については、卵巣が2013年度から7.9ポイント増の8.3%、脳腫瘍が2013年度から22.1ポイント増の28.5%となっている。